

# 肉球ぷに ぷにパブ

山牧田 湧進



【まえがき】

※ 「注意ください」

- ・この作品はフィクションです。実在の人物・地名・団体等とは一切関係ありません。
- ・この作品は成人ゲイ向け官能小説であり、男性同性愛を語っています。
- ・同性愛に嫌悪感を抱く方はご覧にならないよう、お願い申し上げます。
- ・この作品は表現の誇張、強調や省略のある、必ずしも現実には即していないファンタジーであることをご了承ください。
- ・特に作品中の性的描写は、現実の性交渉における性病等のリスクを意図的に排除しています。現実と混同しないよう、ご注意願います。
- ・この作品は想像して楽しんでいただくものです。現実との区別を付けられず、犯罪や迷惑行為に及ぶ危険のある方はご覧にならないでください。

【あらすじ】

学業に部活に邁進するつもりだった俺の大学生活は入学早々に破綻し掛けた。時間と金銭の圧倒的不足。

目の前に立ちほだかる大問題に思わず進路選択ミスという考えすら浮かんで来てしまうほどだったが、恐らく同じような問題に直面し、そして、何とかやり繰りして解決できているのである。先輩から有り難いバイト先の紹介をいただいた。

『肉球ぶにぶにパブ』

その当時、まだ初心<sup>うぶ</sup>だった俺はてっきり猫カフェのバイトかと思っていたのだが、それにしては猫カフェのバイト程度（失礼）で時間と金銭の問題が寛解するなんてとても不思議に思ったし、また、厳しい面接があるとも聞いた。

しかし、背に腹は代えられず、藁をも掴む思いで向かったその先は、猫一匹居ない、ちよつと怪しく、ちよつとエツチで、俺の生活と価値観を一変させた、学業と部活を両立させるのに欠かせない貴重なバイト先となった。

あと、A5ランクって言われた。





# 肉球ぶにぶにパブ



『肉球ぶにぶにパブ』

……学業と部活の両立に困難を極めていた俺に救いの手を差し伸べてくれた先輩が紹介してくれたバイト先だ。

学業と部活の両立に困難を極めて……なんてさも苦勞しているかのような言い回しだが、実は入学してまだ一月も経っていない。

見通しが甘かったのは重々承知。

若さで押し通せるなんて無理も良いところだ。

しかし、予想の予想以上に現実は厳しかった。

時間と金が圧倒的に足りない。

時間は学業と部活、双方の活動に支障が出る。

金は長期的にはもちろん学業にも影響が出るが、とにかくまず先に部活動に支障が出る。

学業と部活の両立以前に、時間と金が両立しないと話にならない。

一瞬、スポーツ推薦を受けた方が良かったんじゃないだろうか、と頭を過る。

少なくとも時間と金の問題は遥かに小さく出来ていたのだろうなあ、と予測する。

だが、それでは俺がやりたかった学業が出来ない。

俺はわざわざ好待遇が約束されていた推薦を蹴って、普通に国公立大を受験した。

学業を切り捨てたくなくて選んだ選択だったのだが、時間と金の問題が契約必須オプションとして付き纏って来た。

『必須オプション』てなんだよ。詐欺サービスじゃねえんだからよ。良くこんなクソみたいなワード思い付くよな、大人の社会ってやつは。

なんて愚痴っている余裕も無い。

下手したら、両立どころか、学業も部活も共倒れになってしまう。

いや、しかし、部活を諦めればまだなんとか……？

って、何考えてんだ&何やってんだ俺は。

なんのために大学に来たのか、その意味が早くも分からなくなり掛け……ていた。

「お前になら紹介してやっても良いと思ってよお」

先輩は俺の可能性を買って、また、俺が直面する困難に大きな理解を示してくれていた。

要は恐らく、『あるある』なんだろう。

苦学生あるある。

特にこの部活は活動費云々も然ることながら、肉体の維持に異様に金が掛

かる。

費用対効果を考えてコストの良い食材を選ぶなんてことは当たり前のようにやっていて、しかし、それでも全然足りないのだ。

同じ部の先輩ともなれば、その辺の苦労は手に取るように分かるのであろう。

それにしても『肉球ぷにぷにパブ』、……猫カフェだろ？

猫カフェのバイトってそんなに儲かるのか？

いや、俺、猫の扱いにはそこそこ慣れているつもりだから、結構できる気であるけど？

しかし、なかなかに厳しい採用面接があるのだと言う。

圧迫面接とかされんのかな？

詳しい内容までは教えてくれなかったんだよね。自分の目で見て自分で判断しろ、って言われた。

しかし、背に腹は代えられない。

少しでも条件の良いバイトにありつけないと、絶対にこの先行き詰まる。

俺は藁をも掴む思いで、先輩の提案に賭けてみることにした。

取り敢えず紹介だけはしてもらって、とりあえず面接はしてもらえることになって、俺は指定の場所へと赴いた。

出迎えてくれたのは下手したら俺よりもガタイの良いおっさん、失礼、お兄さん？ 兄貴？ だった。

あれ？ イメージしてたのと全然違うんだけど？

エプロン付けた小柄なお姉さんとかがまったりとキャツキャウフフしているのを勝手に想像してしまっていたのだが、待てよ？ 全然そこまで考えが至って

なかったのだが、だとしたら俺がココで出来る仕事って何だ？ って話になる

よな。

もしかして、用心棒的な？ いやしかし、猫カフェでそんな仕事必要か？

仮に必要なとしても、この人ひとりで十分じゃ？ 俺まで必要になる理由が

さっぱり分かんねえよ？

「高給は約束してやる。だが、この仕事は適性が無いと出来ないもんでな。その適性を今から試させてもらおう」

「猫の扱いならそこそこ出来ると思いますよ？」

「何言ってるんだ？」

「いや、猫カフェですよ、ここ？」

「うーん、猫と言えば猫かもしれないが、ここに本物の猫は一匹もないな」

「へ？ どういうことですか？」

「お前が猫になるんだよ！」

ドーンっ！



(こちらは体験版です)





## 肉球ぶにぶにパブ

OpusNo.            Novel-086  
ReleaseDate      2022-08-02  
CopyRight ©      山牧田 湧進  
& Author            (Yamakida Yuushin)  
Circle               Gradual Improvement  
URL                  [gi.dodoit.info](http://gi.dodoit.info)

個人で楽しんでいただく作品です。  
個人の使用範疇を超える無断転載やコピー、  
共有、アップロード等はしないでください。  
(こちらは体験版です)